教育課程　２道６

第２学年○組　道徳指導案

平成２９年１月２６日（　曜）第　時限

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　指導者　○　○　○　○

１　主　題　　動植物愛護　＜Ｄ－⑱自然愛・動植物愛護＞

２　資料名　　ぼくの犬ラブ　　出典：「あかるいこころ」　　（愛知県教育振興会）

３　主題設定の理由

1. ねらいとする価値について

　私たち人間は、自然の恩恵を受けて生活をしている。大昔は、野山を駆け巡って狩猟をしたり、植物採集をしたりして自然と共に暮らしていたが、現代社会はそのようなことはあまり行われていない。しかし、生きていく上での自然の重要性は失われたわけではない。そこで、現代の生活に合う動物や植物を大切に思う気持ちを育てていく必要性がある。

低学年の児童達にとって、身近な自然である公園などで過ごしたり、動植物の飼育や栽培をしたりするなどの活動を通して、動物や植物に対する優しさや思いやりの心を育てたい。

1. 児童の実態について

本学級の大半の児童は、生き物が好きである。家庭で生き物を飼っている児童も学級の約５割いる。今は飼っていなくても、過去に飼ったことがある児童も含めると７割を超える。温かい季節には、クワガタやトカゲなどを教室に連れてきて、放課中に生き物と遊ぶ児童もたくさんいた。しかし、その遊び方は生き物のことをあまり考えず、自分本位で生き物にけがをさせても、言い訳ばかりで生き物の気持ちに寄り添えない児童もいる。それが原因となり、児童同士のけんかに発展することもあった。

生き物と遊んだり、世話をしたりするときには、自分がしたいことをするのではなく、生き物のことを考えて行動できるような児童を育成したい。

1. 教材について

　　　 主人公が世話をしたり、一緒に遊んだりしている愛犬のラブ。そのラブが病気になってしまい、以前のように遊ぶことが難しくなってしまった。その上、病気のせいでごはんを食べようとしてもうまく食べられず、時間がかかる。ラブの病気が治ることを祈りながら世話をし、温かく見守るという話である。

　　　 ずっと仲良く遊べると思っていたラブが病気になってしまった。死んでしまうかもしれない。治らず、病気のままかもしれない。主人公の不安な気持ちに共感させたい。不安な気持ちから、病気が治ることを信じて世話をする主人公の行動に着目させ、生き物に対する本当の愛情とは何かを考えさせたい。

４　ねらい

* + 優しい心で生き物に接する主人公の気持ちを考えることを通して、親身になって世話をしようとする意欲を育てる。

５　準　備　教：フラッシュカード　名前プレート　授業後アンケート

６　指導過程

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 過程時間 | 学　習　活　動（主な発問と予想される児童の反応） | 指導上の留意事項 |
| 方向付け(5) | １△生き物の世話と聞いて、思いつくことは何ですか。 | ・生き物の世話について考えさせ、ねらいへの方向付けと、本時の話し合いへの意欲を高める。 |
| 価値の追求把握・自己の生き方の自覚(32) | ２　資料「ぼくの犬ラブ」について、話し合う。1. 主人公（ひろし）とラブに対して、言いたいことを発表する。

・主人公：友達と遊べばいいよ。病院に行ったから、ラブは治るよ。　　　　　治ったら、ラブとまた遊べるといいね。ラブが死ななくてよかったね。ご飯が食べにくいみたいだから、ラブが食べやすいご飯を探そうよ。ラブと遊べなくなっても、ラブの世話をしてあげるなんて、えらいね。ラブを大事にしよう。・ラ　ブ：ごはんをがんばって食べよう。　　　　　いつから病気だったの。薬を飲んだり注射されたりするのは嫌だけど、頑張って病気を早く治そう。　　　　　元気になったら、ひろしとまた遊べるよ。　　　　　ひろしとずっと一緒だよ。ひろしの家の人は病院にも連れて行ってくれたし、ひろしが世話を頑張っているので、ひろしの家の犬でよかったね。1. 自分が、友達の意見で「なるほど」「はっとした」「その通りだと思った」と思えることはありますか。

・　ラブが治ることばかり考えていたけど、治っても治らなくても、ラブは大事だと思う。・　ひろしがかわいそうだと思っていたけど、病気になっているラブの方が大変だから、ひろしをかわいそうというのは違うのかもしれないと思う。　1. ▲自分は何が大切だと思ったか。また、その理由も発表する。

ア＝ラブを大事にしよう。・・・一度飼った生き物は最後まで大事にしたいから。イ＝ひろしとずっと一緒だよ。・・・ラブはひろしの家の家族の一員だから。ウ＝元気になったら、ひろしとまた遊べるよ。・・・　ラブとひろしは仲良しだから。 | ・教師の語りで資料提示する。・①では、登場人物の名前を挙げ、それぞれに言いたいことを率直に出させる。・全員起立させ、自分の言いたいことが全部出たら、着席させる。・児童のどんな意見でも共感的に聞く。・発言した児童の名前プレートを貼る。・言葉の壁がある児童は、児童の様子を見て、着席させる。・②では、友達から学んで、成長できた意見を出させることで、今後の自分の思考の判断材料として生かさせる。・まだ、自分の考えをはっきりさせていない児童には、名前プレートを黒板に貼らせ、自分の考えを明らかにさせる。・さまざまな考え方の中から、自分が特に大切だと思えることを話し合わせる。・理由を述べることで、自己の価値観の自覚を深める。 |
| まとめ(8) | ３　授業のまとめをする。　・動物愛護に関する話を聞く。　・授業後アンケートを書く。 | ・児童の日常の中で見つけた行為か、教師の経験を話す。 |

７　評　価

優しい心で生き物に接する主人公の気持ちを考えることを通して、親身になって世話をしようとする意欲を育ったか。

＜授業前＞　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　＜授業後＞

○　生き物のことを考え、自分も生き物も楽しく遊べる遊び方を考える。

○　生き物を飼ったときは、責任をもって世話をする。

○　生き物のことはあまり考えず、自分が遊びたいように生き物と遊ぶ。

○　生き物に興味があるときは世話をするが、興味がなくなったときは家の人に任せる。

**じゅぎょうの後で＜＜アンケート＞＞**

名前（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

○　「友だちのいけんの中で、自分は思いつかなかったなぁ」と思えるようないけんをかきましょう。

（　　　　　　　　　　　　）さん・くんの

（　　　　　　　　　　　　）さん・くんの

といういけん。

○　今日のじゅぎょうで、思ったことや考えたことを書きましょう。